

令和6年度（2024年度） 第6回社会教育入門講座

<事業報告>

I 事業の概要について

1 事業名

令和6年度（2024年度）第6回社会教育入門講座

2 開催日時

令和6年（2024年）10月25日（木） 15:30～17:00

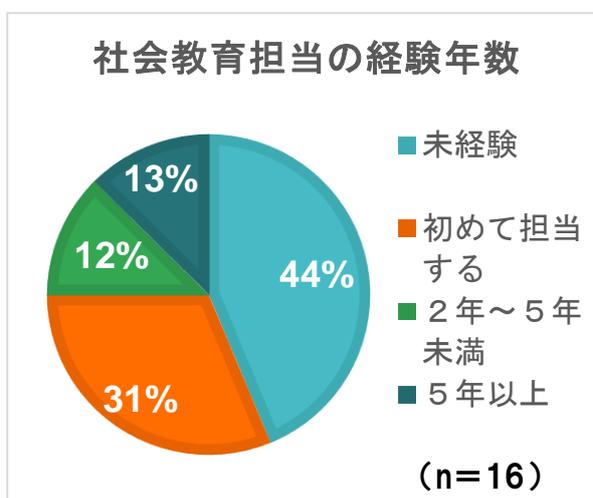
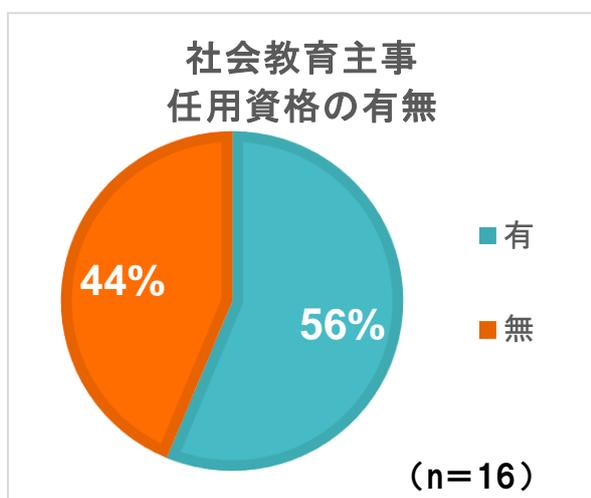
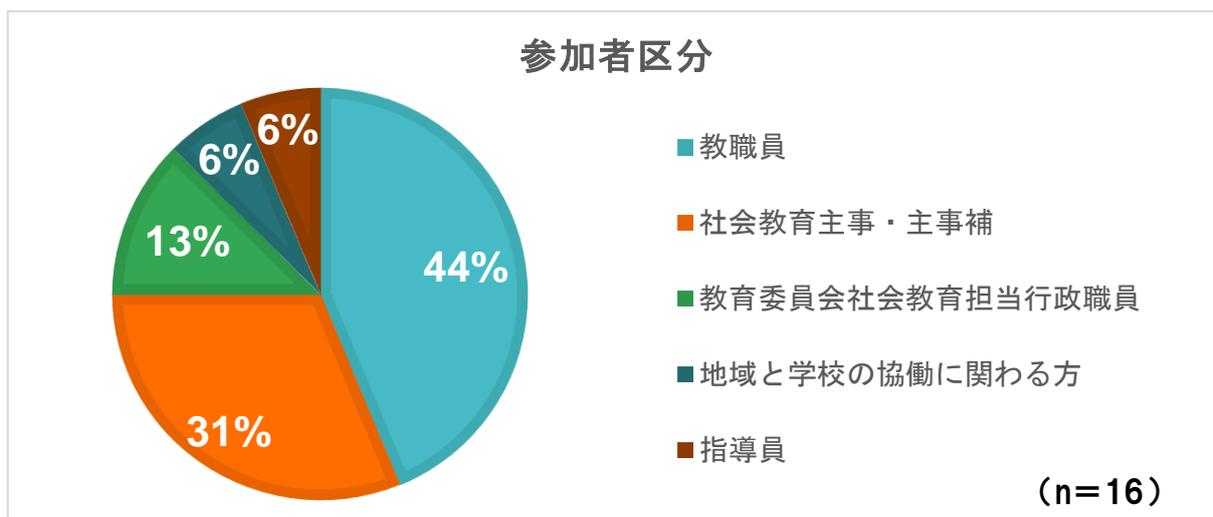
3 開催場所

Web会議システム（Zoom）によるオンライン開催

4 参加人数

28名

5 参加者属性（区分/「社会教育主事」任用資格の有無/社会教育の経験年数）



(次のページへ続く)

6 プログラム

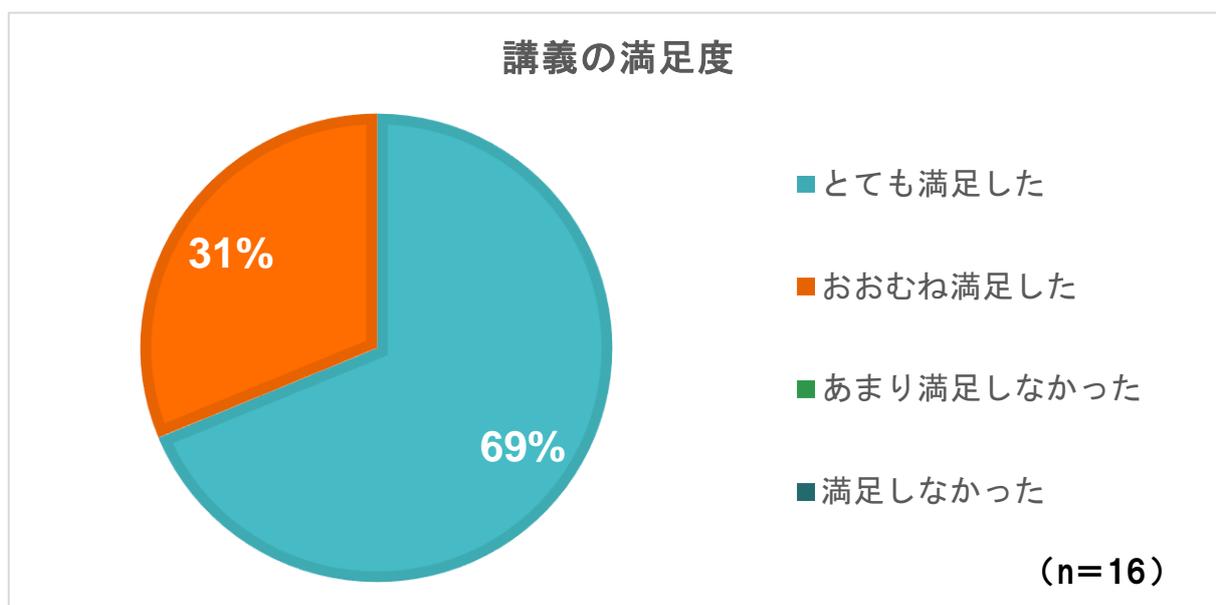
15:20	15:30	16:30	17:00
入室	講義	情報交流	閉会

講 義：「子どもの人権と社会教育について」

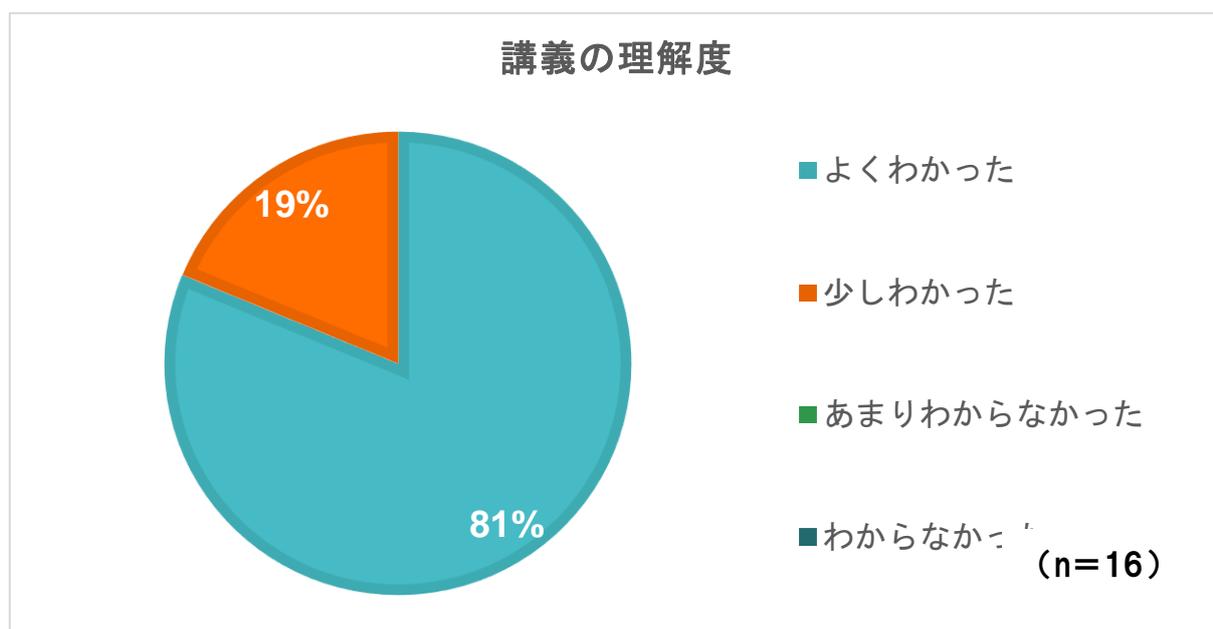
講 師：釧路市教育員会 スクールソーシャルワーカー 信行 亜希子氏

II アンケート結果

1 本講座の満足度について

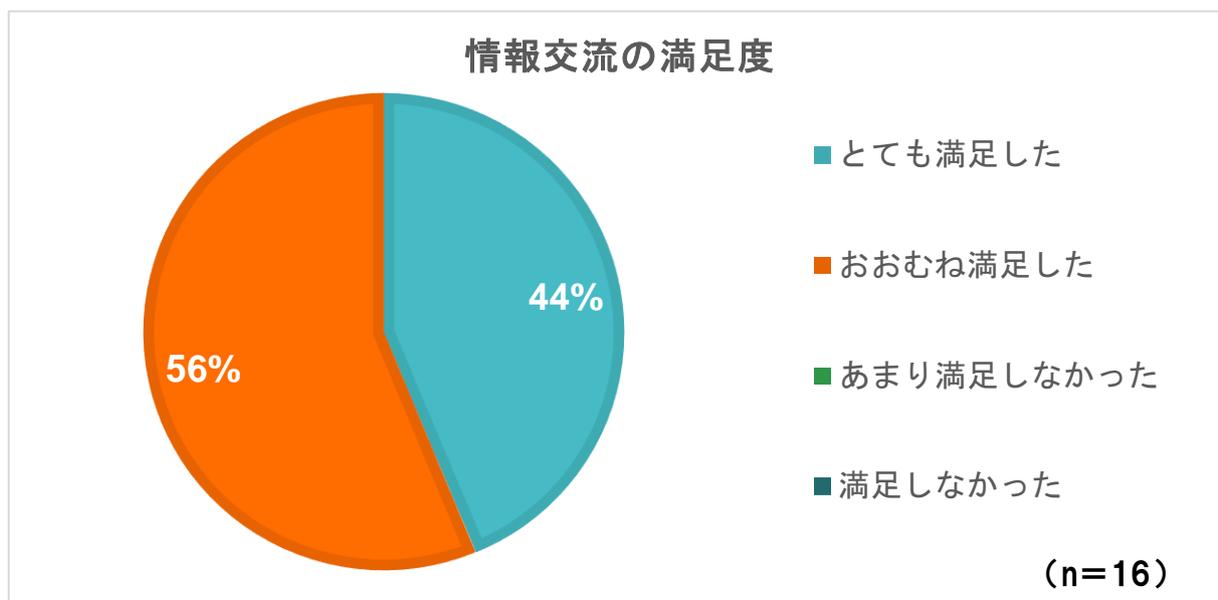


2 講義の理解度について

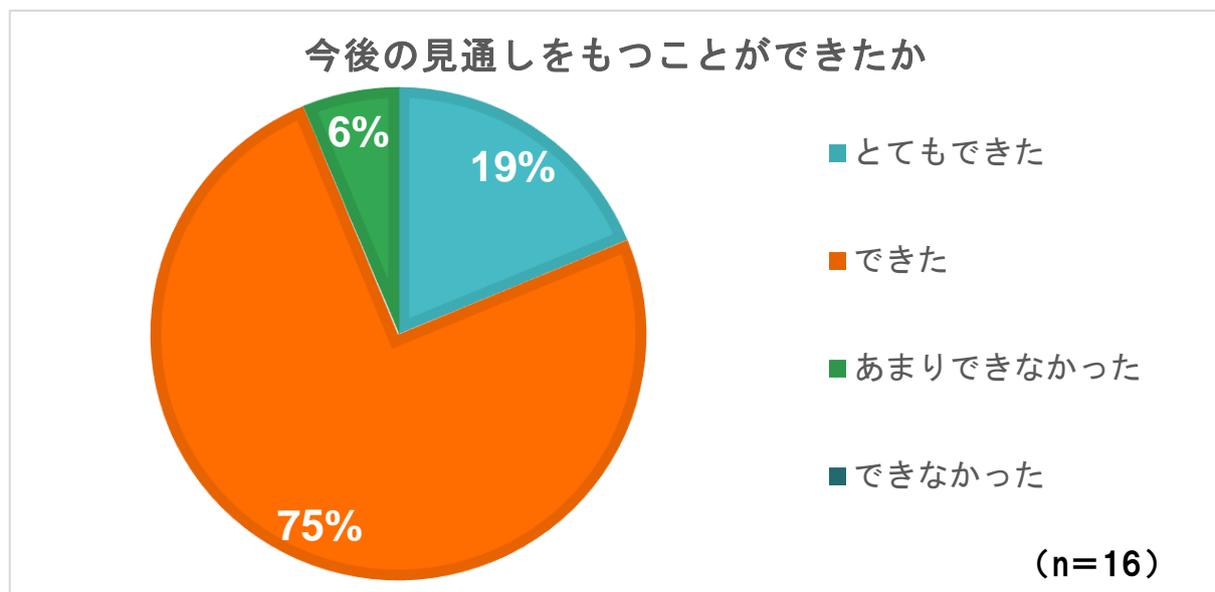


(次のページへ続く)

3 情報交流の満足度



4 講座全体を通して



5 子どもの人権と社会教育の関わりについて気付いたことや大切にしたいと感じたこと（自由記述）

- 社会資源を広く把握しておく必要があると感じました。
- 困ったときには、信行さんに相談すること。
- 地域の社会資源を集まることから始める
- 「家庭教育」なら、「福祉課」と割り切られた考えになりがちだが、もっとたくさんの人が、自分事として関わらなければならない問題だと感じました。
- 多様な人材、団体が子どもに関わることが、子どもの生活や人生を支えることにつながり、その連携先の一つであったり、他の一つ一つをつなげたりすることが、社会教育に求められていることだということが感じられました。
- 第6回のみに参加でしたが、学校の現状などを知る良い機会となりました。

(次のページへ続く)

- 環境に働きかけ、環境を整えることが子どもの人権を守ることにつながる大切さやその道筋・アプローチの仕方の具体を学ぶことができた。SSWの視点やその手法を今後生かしていきたい。
- 対象の子どもに対して、より多くの教育資源とつなげてあげることが大切。子ども本人だけでなく、周りの環境に働きかけることも有効。
- 誰一人取り残されない学びの保障に向けて、啓発活動に力を入れていきます。
- 教職員時代に、SSWの機能を活かせてなかったことに気づきました。その機能については、多くの人を知る必要があると感じました。
- 学校だけではなく、連携して生徒の未来につながる今をサポートしていきたいと、改めて思いました。
- 高校教諭として、不登校生徒への対応など、直面する話題が多く貴重な学びの機会でした。社会資源としての各施設や専門機関の情報を知ること、子どもと社会を結びつけるきっかけを与えられる可能性を感じました。
- 子どもが関われる社会の資源を知っておく必要があると強く感じました。また、何か困ったときに、どんなところと繋がると良いのか、どんな支援を受けられるのかを把握しておく必要があると感じました。
- 不登校児童生徒に関わる機関がたくさんあることがわかったので、不登校児童生徒を対象とした事業を計画する際には連携していきたいと思いました。
- SSWの関わりによって生徒やその家庭を見守るセーフティネットが広がることの重要性を改めて感じた。

6 講座全体を通して、感想や理解したこと、気付いたこと（自由記述）

- では、これから社会教育では、どんなことをすれば良いのか、考えていこうと思います。
- ソーシャルワーカーなどに相談するのは敷居が高いと感じておりましたが、早い段階から介入してもらうことで対応できることの重要性を確認しました。社会教育ではもっと教育委員会や学校と連携を図る必要性を感じたとともに体感格差をどのようになくしていくかが課題であると感じました。
- スクールソーシャルワーカーについても詳しくお話を聞くことができました。多くの人と協力して支援していくことが大切だと感じました。
- 事例をもとに説明していただき、わかりやすかったです。学校がすべてではないと思うので、不登校生徒やひきこもりの人も、社会的に孤立せず、主体的に学べる場が増えていくといいなと思います。
- 「非常識だ…」とか「家庭の問題だから…」と言い訳にせず、寄り添っていきたいとおもいます。
- 信行先生の最後の言葉「相手の背景に寄り添って、想像してみてください…何か児童生徒、世帯に対する理解のヒントが生まれるかもしれません」が印象に残りました。生徒やその家庭の理解に生かしたいと思います。
- 『環境を整える』という言葉がとても印象的でした。どうしても心理面に目がいきがちですが、環境を整えることで解決することも多いと分かりました。
- 自分の常識を押し付けてはいけないと感じました。どんな人と関わる時にも、まずは相手の話をよく聴こうと思います。
- 事例を通して、粘り強く関わりを続けながら、チャンスを捉え、選択肢を提示していくことの重要を感じた。とても参考になりました。ありがとうございました。
- いい勉強になりました。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

(次のページへ続く)

7 今後、当講座で取り上げてほしいテーマや期待すること（自由記述）

- 各自治体における社会教育的課題解決に向けた取組
- どの講座も興味深く参加させていただきました。貴重な学びの機会をオンラインでご提供いただいたことに感謝申し上げます。
- 今回、初めて参加しました。とても勉強になりました。ありがとうございました。今後また、このような講座がまた開催されるなら、SSWの仕事の内容や市町村立と道立での違いなどを詳しく知りたいです。

8 講師から一言

SSW やソーシャルワーカーについて少しでも知っていただけて嬉しかったです。SSW の勤務時間や配属先は自治体それぞれで違います。もっと効果的に活用していけるよう、体制整備に力を入れてほしいと強く思います。様々な関係機関で連携し、子どもたちを守っていくシステムが発展していくよう、これからも日々努力していきたいと思っております。この度はありがとうございました。